



自分らしさを大切に

開小学校 六年 猿渡 絢菜

みなさんは、自分らしさを大切にしていますか。

わたしは、四年生や五年生のころ、自分をうまく表現することができませんでした。いつもはずかしくて、自分の思っていることがなかなか言えませんでした。

「水筒持ってきて。」

と頼まれて、「ごめん、今無理。」と心の中では思っていますが、それを口に出すことはできませんでした。友達からどう思われるかばかり気にして、言いたいことが言えなかったのです。

わたしは、このままではいけないという自分とかがつとうしていました。

五年生の三学期になり、六年生の卒業が近づいてきました。もうすぐ私たちが六年生になります。わたしは、今のままではいけない、もつと変わりたい、もつと自分らしくいたいと思うようになり、もつと、勇気をふりしぼって、「今度こそは自分の思っていることをきちんと伝えよう。」と

決心しました。

ある日友達から、「本とってきて。」

と頼まれました。私はどきどきしながらも、

「ごめん、今は無理。」

と言いました。すると友達は、

「分かった。なんか絢菜、性格変わったね。」

とやさしく笑顔で返してくれました。私はびつくりしたのと同時にとてもうれしくなりました。今まで友達の顔色ばかりうかがっていた自分がばからしく思えてきました。

六年生になった今、私は嫌なこととは嫌だと正直に伝えたり、自分らしく接したりすることができるようになりました。これからも、自分らしさを大切に、わたしみたい自分の気持ち伝えられない人に頑張れと背中をおしたいです。

【先生のコメント】

なかなか自分の思いを素直に言えずに悩んでいることが多かった絢菜さんですが、友達に対して、してあげることが優しさではなく、嫌なことは嫌だと伝えることの大切さに気付くことができました。

「自分らしく」というのは簡単そうで難しいものです。絢菜さんは、勇気を出して「自分らしく」行動することで生き生きと過ごすことができるようになり、友達関係もより深いものになったと思います。

これからも、自分らしく輝いてほしいと思います。



傍観者にならないために

山川中学校 二年 上原 花恋

私達は人権学習で、絵本『わたしのせいじゃない』を使っていじめや差別について学びました。この絵本は、男の子が大勢に叩かれて泣いていて、その周りにいる十四人の子どもが感じたことを言う、といった内容でした。

まず、「いじめられている人(泣いている人)」、「いじめをしている人」、「いじめに同調する人(男の子に非があるという考えを持つ人)」、「見て見ぬふりする人」、「無関心な人」の五つの立ち場に分け、次に班で人物の発言にこだわり、話し合いながら、どの立場にいるのか一人一人を分けていきました。更にクラスで確認しました。その後、五つの立場のうち、「いじめられている人」を被害者、「いじめをしている人」と「同調する人」は加害別者、「見て見ぬふりする人」と「無関心な人」は傍観者となることを知りました。

「叫べばいいのに」「弱虫なのよ、関係ないわ」となげやりな態度の二人は傍観者の「無関心な人」になるのではない

か、という班での結論。しかし、二人とも加害別者の「同調する人」になることがわかりました。直接手を出していなくてもいじめに同調する発言をすれば加害別者になってしまうことにハッとしました。

私はこの学習を通して、加害別者はもちろん、傍観者にもなっていないかと思えました。この絵本のような状況になったとき、きつとほとんどの人が傍観者になつてしまうのだらうなと思つたけれど、私は勇気を出して声をあげ、助けを呼んだり、暴力には手をつかんで止めたりして被害者の味方にならうと思つています。たとえ自分が被害者にならうとも自分でその状況を覆せるような人でありたいと思つきました。

現在世の中では新型コロナウィルスの感染が拡大し、誰がどこで感染してもおかしくない状況です。しかしながら、感染がわかれば、周囲やその人には誹謗中傷が。誰もがたやすく被害者(少数者や弱者)にも加害別者にもなり得ます。そんな今だからこそ、人

権学習で学んだことや、新聞を読んだ考えた「いつか自分もそうなる」という意識と想像力をもって過ごしていくことが大切だと思つていました。それが、差別や誹謗中傷に歯止めをかけることになるのだと思つています。

【先生のコメント】

花恋さんの「被害者の味方になる」という強い思いに感動しました。今の世の中は、新型コロナウィルスによる差別被害、インターネット上での顔も名前も知らない相手からの誹謗中傷など、誰も予測することのできない時代へと突入しています。しかし、どんな時代にならうと、「人から差別を受けることなく自分らしく生きていく」という、人間が生まれた時から持っている権利は、永久に受け継がれていくものです。花恋さんも、「差別をせず、被害者を守る」という揺るぎない人権感覚と意思をもち、これからの時代の担い手として成長してほしいと思つています。

12月4日～10日は「人権週間」です

昭和23年12月10日に国際連合の総会で、世界人権宣言が採択されたことを記念し、12月10日を「人権デー」と定めました。わが国でも、昭和24年から毎年12月10日を最終日とする1週間を「人権週間」と定め、啓発活動が行なわれています。

社会教育課 人権・同和教育係 (TEL 327・9184)

人権相談窓口

【みんなの人権110番】

TEL 0570・0003・1110

【子どもの人権110番】

TEL 0120・0007・1110

【女性の人権ホットライン】

TEL 0570・0070・810

【外国人の人権相談窓口】

TEL 0570・0909・9111

※英語・中国語・韓国語・フィリピン語・ポルトガル語・ベトナム語・ネパール語・スペイン語・インドネシア語・タイ語の10言語に対応

【インターネット人権相談窓口】

https://www.jinken.go.jp/

12月3日～9日は「障害者週間」です

障がい福祉について関心と理解を深めるとともに障がいのある人が社会、経済、文化その他あらゆる分野の活動に積極的に参加する意欲を高めることを目的として定められています。

社会教育課 人権・同和教育係 (TEL 327・9184)

12月10日～16日は

「北朝鮮人権侵害問題啓発週間」

一日も早い拉致問題の解決に向け、政府は全力で取り組んでいます。

拉致問題やその他人権侵害問題に一人ひとりが関心を持ち認識を深めましょう。

法務省 <http://www.moj.go.jp/>

拉致問題対策本部 <http://www.rachi.go.jp/>

柳川警察署 (TEL 74・0110)

◎拉致問題を考えるみんなの集い (入場無料、申し込み不要)

■日時

12月5日(土)午後1時30分～3時30分

(開場 午後1時)

■場所 まいぴア高田

■内容

▽講演Ⅱ「北朝鮮よ、姉を帰せ！」

講師 横田 拓也 氏

(北朝鮮による拉致被害者家族連絡会事務局長。拉致被害者 横田めぐみさんの弟)

▽「拉致被害者御家族ビデオメッセージ」上映

▽救済活動報告

◎北朝鮮拉致問題パネル展示(入場無料)

※12月5日(土)まで

社会教育課 人権・同和教育係

(TEL 327・9184)